

黎明期

年月	西暦	財団・北海寮関係	社会一般
明治			
38.4	(1905)	北海道学生会が大久保偵次らにより結成	日露戦争勃発
45.3	(1912)	学生会第8回総会後の役員会で「寄宿舎設立に関する方針」について審議	明治天皇崩御
昭和			
6.4/3	(1931)	札幌中学在京同窓会(六華会)の会合で、寄宿舎建設が発案	満州事変勃発
6.10/29	(1931)	日本青年会館にて北海道在京学生会の結成大会を挙行	満州国建立(7年)
7.6/10	(1932)	学生会の「会報」第1号発刊 以後昭和15年の第9号まで毎年発行	五・一五事件発生
8.1/23	(1933)	学生会理事会で、財団法人設立、会館敷地選定の件について特別委員会設置を決定	昭和三陸地震発生
8.7/28	(1933)	財団法人設立許可を申請	
8.8	(1933)	会館建設図面完成	
8.8	(1933)	学生会理事武富英一(大倉組技師長)が中心となり、土居、岡村、伊集院、栗山の各学生会理事が建設を担当	日本 国際連盟脱退
8.8/26	(1933)	文部大臣から「財団法人北海道在京学生後援会」設立許可を受ける	
8.9/1	(1933)	第1回役員会を開催 理事長に大久保偵次、常務理事に土居通次を選任、事務を評議員今野三治に委嘱 建設委員を土居通次、岡村千曳、武富英一、栗山禮而、伊集院兼清、今野三治に委嘱	

戸山ヶ原寮時代

8.9	(1933)	寮建設のため淀橋区西大久保4丁目170番の738坪を購入、237坪の建屋建設を決定	
8.9	(1933)	建設工事請負業者として1万7,000円で落札した守屋数雄に決定	
8.9/8	(1933)	財団法人設立に関する登記完了	
8.10/17	(1933)	会館及び寮の上棟式を挙行	
8.12	(1933)	会館及び寮の竣工式を挙行 名称を「北海寮」(通称、戸山ヶ原寮)と決定	
8.12	(1933)	寮の完成に伴い寮生の入寮開始 寮費は月額19円50銭	
9.1	(1934)	寮生会で、寮生松井進作、室谷彌左右を庶務委員として理事長が委嘱	帝人事件発生
9.2	(1934)	北海寮綱領を定める	
9.3	(1934)	函館の大火被災に際し、寮生が義捐金募金活動を行い、募金額1,000円を函館市長へ	函館大火発生
9.4	(1934)	寮母として横川豊野を採用	
9.4/29	(1934)	寮落成祝賀会を開催	
9.10	(1934)	寮秋季旅行(以後15年まで毎年実施)1泊2日	
9.10	(1934)	総務、庶務、会計、図書、運動、園芸の各寮務委員を決定 「寮生自治」が始まる	
10.2	(1935)	第1回卒業生送別会	
10.6	(1935)	札幌第一中学校修学旅行団歓迎会開催 (学生会行事)	
10.6	(1935)	金田一京助博士の講演会開催 (学生会行事)	
10.8	(1935)	大久保理事長寄附により電話1台開通	
10.9	(1935)	初代寮歌完成 作詞 小栗敏一(土井晩翠校閲)・作曲 梁田 貞	
10.11	(1935)	北海道在京学生第1回美術展覧会開催 (学生会行事)	
10.11	(1935)	北海道出身学生冬季オリンピック参加選手壮行会開催 (学生会行事)	
11.2	(1936)	理事武富英一寄附によりテニスコート土留コンクリート打と金網取付工事	二・二六事件発生
11.4	(1936)	御台場水上公園で開寮記念祝賀会を挙行	
11.11	(1936)	監事大澤竹次郎ドイツ留学送別会開催 (学生会行事)	
12.4	(1937)	北海寮開寮4周年祝賀会	支那事変勃発
12.6	(1937)	灯火管制下、寮生を主体に消防・防火演習を実施	
12.9	(1937)	常務理事土居通次室蘭市長として赴任	
12.10/28	(1937)	財団支援を目的として北海寮出身者で「はまなす会(玫瑰会)」結成	国家総動員法公布(13年)
14.6/5	(1939)	北海道在京学生会会長佐藤昌介逝去(北大にて大学葬/常務理事土居通次参列)	第二次世界大戦勃発
14.6	(1939)	男爵佐藤昌介財団追悼会(理事長大久保偵次・恵泉女学園学長河井 道 追憶講演)	
15.5	(1940)	学生会創立10周年記念として懸賞論文を募集	日独伊三国同盟締結
15.5	(1940)	全国中学校校長会議に出席の北海道中学校長を北海寮へ招待し懇談 網走中、札幌一中、苫中、函中、岩中、夕中、北空中 各校長	

昭和

15. 9	(1940)	維持員制度創設、募集開始	
15.10	(1940)	維持員会開催	
15.12	(1940)	各大学、専門学校の道人会会長を北海道在京学生会の理事に推挙を決定	臨時徴兵制度施行(16年)
17. 1/14	(1942)	日比谷公会堂において財団主催の新響音楽会を開催 財団名義で音楽会の収益金739円70銭を国防費として献納	太平洋戦争突入(16年) 食糧の配給制度進む
18. 5	(1943)	会館並びに寮開設10周年記念式典挙行	
18.10	(1943)	理事会において「在学徴兵延期臨時特例」を協議	第一回学徒出陣
18.12/27	(1943)	寮において応召者壮行会を行う	
20. 2	(1945)	大倉海上火災保険(株)と30万円の火災保険締結 (5万円から増額)	東京空襲始まる(19年)
20. 4	(1945)	第2回大空襲で寮は焼夷弾を受けたが、寮生らによって消火	ドイツ無条件降伏
20. 5/20	(1945)	理事会で「北海寮の寮生収容を停止し、5月25日から日本製鐵に貸与」を議決	
20. 5/25	(1945)	25日未明からの大空襲により北海寮戦災焼失	
20. 6	(1945)	焼失により敷地738坪を海城中学校へ戦時農園として貸与覚書締結	

北海寮再興準備時代

20. 8/22	(1945)	理事会開催(理事長大久保宅)貨幣価値低下に伴い預金の不動産への換価可否を協議、有利な物件を物色し、見つかり次第協議する	ポツダム宣言受諾・終戦 連合軍総司令部設置
21. 7	(1946)	経済・食料事情悪化や預金封鎖のため火災保険28万円解除を大蔵省に申請	日本国憲法公布
22. 7	(1947)	評議員会開催(理事長大久保宅)預金解除、基本財産から削除議決	
23. 6	(1948)	神田神保町1-2に13坪の地上権付25坪2階建新築店舗を65万円で購入 財団が融資し食料品店「六華」を開業 2階の一部を財団連絡所とする	新制高校発足
23. 6	(1948)	海城高等学校から北海寮敷地譲渡申し入れあり、交渉開始	
23. 9	(1948)	北海道知事田中敏文 理事長大久保を訪問、財団の事業に理解を示し助力を約束	
23. 9	(1948)	土地選定委員として理事大澤竹次郎、監事北原金司を選出	
23. 9	(1948)	六華が煙草小売店許可を得る	
23.12	(1948)	戸山ヶ原敷地738坪を海城高等学校へ85万円で売却決定	
24. 7/28	(1949)	財団住所を新宿区西大久保から神田神保町1-2へ移転	湯川秀樹、ノーベル賞受賞
25. 3	(1950)	「六華」が菓書・煙草に加えてパン・アイスクリーム・大福餅販売 営業が軌道に乗り、年間12万円を財団へ納金	朝鮮戦争勃発
25. 4	(1950)	北海寮再建に向けて2,000万円募金活動に着手 趣意書5,000部作成	
25. 8	(1950)	東京都へ建設寄附金免税措置を陳情	
25. 9	(1950)	サッポロ・ビア一園で池田一郎、前沢良雄、工藤欣也、窪田賢三等が集まり北海道はまなす会発足	
26. 3	(1951)	練馬区石神井に土地購入のための交渉を行う	サンフランシスコ条約締結
26. 5	(1951)	石神井2丁目847番地の寮建設用地600坪を桜井長太郎から30万円で購入	
26. 8	(1951)	北海寮再建委員会設置 東京と札幌に北海寮再建実行委員会を置く	日米安全保障条約締結

東五軒町寮時代

26. 9	(1951)	道議会議長蒔田余吉に財団顧問就任を依頼、承諾される	
27. 1/23	(1952)	財団常務理事土居通次北海道で募金活動中急逝	連合軍総司令部廃止
27. 1/23	(1952)	土居通次北海道学生会葬(葬儀委員長今野三治 於札幌西本願寺)	
27. 1	(1952)	配炭公団が所有の家屋(元整形外科医院 新宿区東五軒町54 宅地175.62坪建物鉄筋コンクリート3階建1棟延坪191坪)を払下げ決定	
27. 2/14	(1952)	日経連主催 土居通次追悼会を行う	十勝沖大地震発生
27. 3	(1952)	配炭公団の払下げ物件を485万円で落札 学生寮として改装に着手	
27. 6/1	(1952)	東五軒町北海寮開寮(寮費月額 4,000円)	

昭和

- | | | | |
|----------|--------|---|--------------|
| 27. 6/10 | (1952) | 在京14大学36人の学生を収容 | |
| 27. 6 | (1952) | 北海道副知事野口常利、地方財政課長浅井好二、財政課長新田弥太郎、東京事務所業務課長花田隼人 北海寮視察 | |
| 27. 8 | (1952) | 北海道から200万円補助金受領 | |
| 27. 9 | (1952) | 理事長大久保偵次(社)北海道倶楽部に維持会員として入会 | |
| 27.11 | (1952) | 東京都から建設寄附金免税許可を受ける | テレビ放送開始(28年) |
| 29. 9 | (1954) | 北海寮管理規定、同細則を制定 | |
| 29.10 | (1954) | 学生会の「会報」復刊第1号を発行(昭和39年第10号まで続刊) | 台風15号(洞爺丸沈没) |

初代石神井寮時代

- | | | | |
|----------|--------|--|------------------------|
| 30. 7 | (1955) | 文部省と建設省から学生寮建設計画要綱が通達される | 神武景気 |
| 30. 8 | (1955) | 役員会において文部省の計画に沿って、大規模学生寮建設の助成の申請を決定 | |
| 30. 8 | (1955) | 常務理事今野三治渡道 知事、教育長に新寮建設の協力を依頼 | |
| 30.10 | (1955) | 「六華」廃業 | |
| 30.10 | (1955) | 東五軒町寮の土地・建物を朝倉鑛造へ1,130万円で売却合意 | |
| 30.11/17 | (1955) | 文部省、建設省から学生寮建設助成の承認を受ける 建設地は石神井の所有地とし、建設資金は国庫補助金266万2,000円、住宅公団融資1,441万円、資産売却、自己資金及び寄附金とする | |
| 30.11 | (1955) | 役員会で7人の建設委員を決定 寮建設の土地不足分(51.48坪)を桜井長太郎から25万7,400円で購入 設計は徳永建築設計事務所に、建設は鹿島建設(株)とし、建設総額3,500万円とする | |
| 30.11 | (1955) | 建設着工 | |
| 31. 5 | (1956) | 学生会館及び北海寮が竣工 | 国連加盟 |
| 31. 6 | (1956) | 石神井寮開寮 東五軒町の寮生入寮を開始 | |
| 31. 6/15 | (1956) | 落成式挙行 文部大臣(代)、住宅金融公庫総裁、学生会会長、北海道知事(代)祝辞 | |
| 31.10 | (1956) | 北海道冷害義捐金募金活動 募金額56万円を日本赤十字社を通じ寄附 | |
| 31.10 | (1956) | 神田の「六華」を120万円で売却 | |
| 32. 4 | (1957) | 東京都から固定資産税免税扱いの通知を受ける | 人工衛星スプートニク打上げ |
| 32. 4 | (1957) | 寮費(暖房費を含めて)を月額4,500円に改定 | |
| 32. 6 | (1957) | 開寮1周年記念式典を挙行 記念行事として寮祭を開催(以降毎年) | |
| 32. 6 | (1957) | 練馬区上石神井2丁目847番地の297.29坪を133万7,805円で桜井久治から購入 | |
| 32. 7 | (1957) | 練馬区上石神井2丁目894番地の122坪を67万1,000円で服部泰蔵から購入 | |
| 32.10 | (1957) | 室蘭市から補助金13万円を受ける | |
| 32.10 | (1957) | テニス(兼)バレーボールコート完成 | 岩戸景気(33年) |
| 32.12 | (1957) | 北海道から北海寮寮建設補助金250万円受領 | 東京タワー完成(33年) |
| 34.11 | (1959) | 理事長大久保偵次、藍綬褒章受章 | 皇太子明仁親王御成婚 |
| 35. 2 | (1960) | 道学事課から寮の増築費用として補助金150万円決定の通知を受ける | 日米安全保障条約改定 |
| 35. 4/29 | (1960) | 北海寮で理事長大久保偵次藍綬褒章受章祝賀式典、胸像除幕式挙行 関係者250人参加 | |
| 36. 8 | (1961) | 小児マヒ救済募金活動のための音楽会を札幌等で開催 収益金40万円を日本赤十字社を通じ寄附 | |
| 36. 8 | (1961) | ホール上に新館増築決定(個室16室、宿泊室、用務員室)、建築費648万円 | |
| 36.10 | (1961) | 主事田中一誠 就任 | |
| 37. 3 | (1962) | 財団所有の土地121.45坪を吉田久一へ売却(534万3,800円)、増築費用に繰入れ | 国産第1号原子炉点火(38年) |
| 37. 3 | (1962) | 新館竣工 | |
| 37.12 | (1962) | 札幌市から10万円、北海道市町会から20万円の補助金を受ける | |
| 37.12 | (1962) | 寮のボイラーを石炭から重油に切り替えることを決定し、契約着工 | |
| 37.12 | (1962) | 38年度寮費を新入寮生7,500円在寮生6,500円、暖房費1,500円(年額)に決定 | ケネディ大統領暗殺(38年) |
| 39.11 | (1964) | 11月7日から11日まで、有楽町・渋谷・新宿・お茶の水・池袋の街頭で郷土北海道冷害のため農民救済の募金活動を行い、募金額89万円を日本赤十字社へ寄附 | 東海道新幹線開業
東京オリンピック開催 |

昭和

		40.11 (1965) 北海寮敷地の一角を無償提供して消火槽を設置したことにより、消防総監から感謝状	プロ野球ドラフト制開始
		41. 7 (1966) 主事田中一誠 退職 事務嘱託塚越亘恕 就任	人口1億人突破
	41.11/ 6	(1966) 初代石神井寮の開設10周年記念式典を寮ホールにおいて挙行、来賓多数出席	
	42. 3	(1967) 事務嘱託 塚越亘恕 退職	四日市公害裁判
	42. 3	(1967) 主事 大井三郎、寮母 大井モト 就任	
	43. 4	(1968) 大学の学園紛争拡がる 寮生にも若干影響される者があったが、寮生活に影響なし	3億円事件
	43. 5	(1968) 主事住宅を新築 請負金額134万1,000円	
	45. 6	(1970) 理事長大久保偵次退任し、会長に就任 第2代理事長に理事室谷彌左右 就任	日本万国博覧会開催
	48. 2/10	(1973) 会長大久保偵次逝去	札幌オリンピック開催(47年)
	48. 2/14	(1973) 大久保偵次葬儀(葬儀委員長室谷彌左右、寮生代表も弔辞)	男女雇用機会均等法(47年)
	48. 4	(1973) 物価高で食生活苦しく、4月から食費2,000円増額し、寮費を9,500円とする 寮生17人転出	金大中事件発生
	48. 4/15	(1973) 元常務理事今野三治の胸像除幕式、胸像は安倍和子(当時理事安倍正三令嬢)制作	第一次オイルショック
	49. 4	(1974) 寮費1万1,000円に増額	田中内閣総辞職
	49.10	(1974) 物価高で寮費再値上げ 1万5,000円	
	50.11	(1975) 北海道から1,000万円の補助を受け改修工事(2,050万円)を実施	沖縄国際海洋博覧会開催
	52. 2	(1977) 北海寮改修工事完了	王貞治 本塁打世界記録
	53. 4	(1978) 食費1万5,000円 寮費7,000円 合計2万2,000円 入寮金3万円	
	54. 3	(1979) 主事 大井三郎、寮母 大井モト 退職	東京サミット開催
	54. 4	(1979) 主事 福島八郎、寮母 福島慶子 就任 入寮金4万円に値上げ	
	55. 4	(1980) 諸物価高騰のため寮費値上げ 2万6,000円	
	57. 6	(1982) 理事長室谷彌左右退任、第3代理事長に理事安倍正三 就任	東北・上越新幹線開業
	58. 4	(1983) 諸物価高騰のため寮費値上げ 2万9,000円	
	58.10/ 9	(1983) 北海寮創立50周年記念式典を北海寮において挙行(来賓、関係者69人出席) 記念事業として記念誌、はまなす会名簿を作成 北海道放送から寮生活のビデオ映像が贈られる	東京ディズニーランド開園
	58.11/ 1	(1983) 北海寮創立50周年記念式典を札幌グランドホテルで挙行(来賓、関係者88人出席)	
	60. 4	(1985) 前北海道知事の堂垣内尚弘を顧問に招聘	つくば科学万博開催
	60. 4	(1985) 入寮金 5万円に値上げ	日航機墜落
	60. 4	(1985) 北海寮の将来を考える委員会(将来委員会)設置	
	61. 4	(1986) 寮の将来へ向け中期、長期的改善対策の報告書が将来委員会から提出される 諸物価高騰のため寮費値上げ 3万2,000円	国鉄民営化(62年)
	63. 4	(1988) 北海寮再建プロジェクト委員会設置される	青函トンネル開通、リクルート事件
	平成		
	元. 5	(1989) 再建プロジェクト委員会解散、北海寮建設委員会設置	消費税導入
	元. 7/ 6	(1989) 理事長安倍正三逝去 後日、理事長代行に室谷彌左右就任	
	元. 9/ 17	(1989) 安倍正三追悼式を北海寮で行う	

第二世代石神井寮時代

		2. 5 (1990) 入寮生27人中13名が入寮後2週間で退寮	バブル崩壊
		2. 6 (1990) 第4代理事長に監事川村忠男就任	
		3. 9 (1991) 東京都教育委員会の指導を受け財団の寄附行為を全面改定	
		3.10 (1991) 千代田火災海上保険㈱と寮敷地一部(856.29㎡)を8億4,800万円で売買契約締結 大成プレハブ㈱と7億1,500万円で建設契約締結	湾岸戦争勃発
		4. 4 (1992) 建築確認申請受理される	
		4. 5 (1992) 建設募金募集実行委員会発足 総額2,900万円(北海道補助金除く)	
	4. 6/25	(1992) 地鎮祭 18人出席	
	4.10	(1992) 新寮運営検討委員会発足	
	4.12	(1992) 北海道から補助金決定通知 5,000万円 東京都から緑化補助金131万円	
	4.12	(1992) 練馬区へ公園用地の無償提供(227.35㎡) 造園費用351万円負担	

平成

5. 3/20	(1993)	修祓式 19人出席	サッカー・Jリーグ開幕
5. 3	(1993)	主事 福島八郎、寮母 福島慶子 退職	
5. 4	(1993)	主事 垣内堯男、寮母 垣内光代 就任	
5. 4	(1993)	寮費2万円 預り金3万円 電話施設費800円 食費3万円 合計5万800円 入寮金5万円	
5. 7/10	(1993)	60周年記念祝賀会(札幌ガーデンパレス) 92人出席	
5. 7/24	(1993)	新寮完成祝賀会及び60周年記念祝賀会(北海寮) 141人出席	
5. 7	(1993)	北海道南西沖地震奥尻島被災の募金活動を武蔵関駅前で行う 募金額55万6,668円	
6. 2	(1994)	元NTT会長の児島 仁を顧問に招聘	
6. 3/31	(1994)	寮則違反の寮生6人に退寮勧告	自社さ政権成立
7. 5	(1995)	主事の呼称を寮監と改称	オウム真理教事件発生
7. 5	(1995)	入寮生26人中9人が退寮するという異常事態発生	
7. 5	(1995)	新寮生受入れ改善委員会発足	
8. 2	(1996)	退寮者9人の母親が北海道学事課長へ対応改善を求める	阪神・淡路大震災発生
8. 3	(1996)	理事長川村と常務理事橋向が札幌へ出向き9人の父母と協議し理解を得る	
8. 4/ 5	(1996)	元理事長室谷彌左右逝去	ペルー日本大使公邸占拠事件 長野オリンピック開催
10. 4	(1998)	給食業務を個人請負方式から会社組織(全食、現レオックサービス)による請負に切替	
11. 6	(1999)	不審者侵入により各階非常口に火災報知設備と連動した電気錠を設置	
11. 7	(1999)	はまなす親の会発足	日銀、ゼロ金利政策実施
11.11	(1999)	財団ホームページを公開	
12. 4	(2000)	寮費2万円 共益費5,000円 食費3万円 合計5万5,000円 入寮金7万円 預り金3万円	九州・沖縄サミット開催
12. 6	(2000)	理事長川村忠男 退任、第5代理事長に専務理事橋向敏治 就任	
12. 8	(2000)	はまなす会有志による豪州旅行	
13. 3	(2001)	寮監 垣内堯男、寮母 垣内光代 退職	中央省庁再編
13. 4	(2001)	寮監 新野靖史、寮母 新野英子 就任	
13. 4	(2001)	嘱託医を評議員村上和彦に委嘱	米、同時多発テロ発生
15.10	(2003)	はまなす会有志によるハワイ旅行	自衛隊イラク派遣
16. 4	(2004)	北海寮修理検討委員会設置	
17. 4	(2005)	共用部壁クロス張替え、図書室床張替え、アスレチック室壁クロス張替え、シール工事	道路公団民営化
18. 4	(2006)	食堂床一部張替え、浴室天井張替え、シャワー交換、ボイラー修理	
18. 3	(2006)	寮監 新野靖史、寮母 新野英子 退職	
18. 4	(2006)	寮監 山下敬一、寮母 山下雅子 就任	
19. 6	(2007)	理事長橋向敏治 退任、第6代理事長に常務理事桂 正洋 就任	郵政民営化
21. 4	(2009)	中規模改修工事:屋上防水、外壁防水、外壁タイル洗浄、鉄部塗装、寮室エアコン交換 建築関係改修工事費 2,079万円 寮室エアコン交換 526万7,000円	洞爺湖サミット開催(20年)
21. 4	(2009)	消費税負担のための値上げ 寮費2万円 共益費1万円 食費3万円 合計6万円	裁判員制度導入
22. 5	(2010)	北海寮敷地内を全面禁煙	
23. 5	(2011)	寮祭模擬店による収益金12万7,333円を北海道新聞社を通じ日本赤十字社へ寄附	東日本大震災発生
23. 9	(2011)	臨時理事会開催 公益財団法人北海道在京学生後援会定款の決定及び移行認定申請	
23.12	(2011)	NTT安否確認システムを導入	
24. 3/22	(2012)	公益財団法人移行認定書が交付される	
24. 4/ 1	(2012)	公益財団法人移行登記	
24. 4/ 1	(2012)	理事長桂 正洋 退任、第7代理事長に常務理事塚越孝平 就任	
24. 5	(2012)	寮祭模擬店による収益金15万6,000円を北海道新聞社を通じ日本赤十字社へ寄附	東京スカイツリー完成
24. 7	(2012)	80年史編纂委員会発足	
24. 8	(2012)	北海道学事課ホームページに当財団PRページが掲載される	
24. 9	(2012)	税額控除適用対象団体の認可取得	
24. 9/ 8	(2012)	前北海道教育長の相馬秋夫を顧問に招聘	
25. 7/ 5	(2012)	理事長塚越、常務理事大沼、理事土栄、事務局長山下が北海道高橋知事と面談	
25. 9/ 8	(2013)	財団・北海寮建寮80周年記念式典を東京スクール麹町で挙行(来賓、関係者103人出席)	
25. 10/26	(2013)	財団・北海寮建寮80周年記念式典を札幌すみれホテルで挙行(来賓、関係者89人出席)	